

## 鉄道橋で繁殖したチョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

福井 亘

埼玉県南部の平野部の列車が頻繁に通過する鉄道橋において、チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* の繁殖を確認したので報告する。

### 繁殖発見のきっかけ

同所では、1985年5月にチョウゲンボウが観察されたので、同年9月から継続観察を開始した。1986年3月24日にはオス3羽が空中で追い合う行動がみられ、同26日にはオスの争いは見られず、オス、メス各1羽が行動を共にしているのが観察された。5月8日にはオス、メスで鉄道橋に並んでとまっているのを発見し、オスがメスに給餌するのが観察された。同16日にはオスがハシボソガラス1羽を鉄道橋から約200m追いかけるのが観察された。越冬中には見られなかった行動である。18日には鉄道鉄上部の鉄骨の空間(穴)にエサを運び込んでいるのを確認した。

### 巣について

巣は鉄道橋上部の鉄骨の下にあいている穴であり、鉄骨に規則的(約5m間隔)にあげられているもののひとつである。同じ橋の他の穴ではムクドリが営巣(隣の穴でも)している。ムクドリの巣では巣材がはみ出しているのが、チョウゲンボウの巣は外から見る限り巣材が全く見られないので、その量は極めて少量もしくは使用していないと考えられる。

巣では4羽のヒナが確認された。

なお穴の大きさは約10cm×40cmであり、穴は下向きに開いている。

### 給餌について

巣発見当初の5月18日はエサを運び込むと5分くらい出てこなかったが、5月22日にはエサを運び込むとすぐ出てくるが多かった。18日はまだヒナが小さく、親が巢内でエサをちぎって与えていたと考えられる。給餌間隔は短ければ5分、長ければ1時間とかなり不規則である。18日には給餌は1時間に5~6回の割合で行われた。主にエサを捕ってくるのはオ

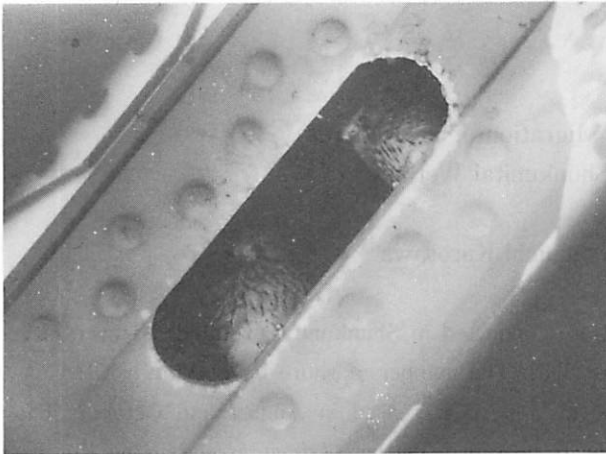


図1. 鉄道橋鉄骨に営巣したチョウゲンボウ。巣穴から2羽の幼鳥がみえる(1986.6.7 海老原美夫撮影)。

Fig.1. Juveniles of *Falco tinnunculus* in the nest hole in the railway bridge.

スで、メスは巣から約20m離れた鉄骨の上でオスから給餌を受け巣に運び込み、出てくると巣の直下の鉄骨にとまることが多かった。メスは巣を離れることはあまりなく、離れても巣の近くでエサを捕ったり、付近にとまっているハシブトガラスに飛びながら攻撃をしかけたりするだけで戻り、巣の付近の鉄骨や送電線の支柱などにとまった。オスはメスに給餌するとただちに飛び去り、1時間以上も戻ってこないこともあった。しかし、オスが狩猟でメスが給餌という役割分担は巣立ち間近の5月31日ごろから崩れ、オスが直接ヒナに給餌することもあった。エサは大部分がネズミ類でスズメを1度もってきたことがあった。これ以外のものもあったが確認できなかった。なお6月5日にはメスがムクドリ2羽を追いかけるのが観察された。

#### 巣立ち

1. 巣立ち前：巣立ち1日前（6月1日）には巣から細かいゴミがバラバラと落ちてくるのが見られた。ヒナが巣内ではばたきをしているものと思われた。当日（6月2日）になると親はエサを持ってきてすぐ巣に入らず巣の近くに約5分とどまったり、鉄道橋上空を鳴きながら旋回し巣立ちを促していると思われる行動が観察された。

2. 巣立ち：6月2日19時ごろ、巣近くにとまっているヒナ1羽、5日に巣内にヒナ2羽を確認した。ヒナ数は4羽だったことから、2羽はすでに巣立ちしたと考えられた。6日7時40分には1羽の巣立ちを観察することができた。巣立ちはずいぶんヒナが頭から下向きに落下するように飛び出し、すぐ上昇して水平の鉄骨にしがみつき、垂直に近い姿勢でとまっていた。約2分その姿勢を保った後、約1分回りを見回し、水平に近い普通のとまり方になった。7日は巣にはヒナ2羽が確認された。6日に3羽巣立っているのだから、1羽が巣へもどったらしい。一時的な巣立ちだったと考えられる。9日7時40分、巣内にはヒナが見られなかった。すべてのヒナが巣立ったと考えられる。最初の巣立ちから4羽全部の巣立ちまで一週間を要している。

3. 巣立ち後：最後のヒナが巣立った翌日の6月10日、鉄道橋上に4羽（成鳥かヒナかは未確認）が並んでいるのを観察した。3羽は飛ぶのも確認したが、1羽は鉄道橋上を50mくらいずつ飛んで移動し、その場で浮かび上がるようにはばたく行動が観察された。また、時々オス（前述の4羽には含まれない）の給餌を受けていた。6月18日、鉄道橋上空をオス（成鳥）1羽、他に2羽（幼鳥又はメス成鳥と思われるが不明）が飛んでいるのを観察した。しかし6月23日以降は成鳥と思われるオス1羽のみが観察されただけである。

#### おわりに

本レポートを書くにあたり、御指道、御援助いただいた埼玉県支部副支部長海老原美夫氏、同研究部長小荷田行男氏、同幹事福井恒人氏に対し厚く御礼申し上げます。

#### A pair of Kestrels nested in a railway bridge

Wataru Fukui

In May-June 1986, a pair of the Kestrel (*Falco tinnunculus*) nested in a hole in a railway bridge in the southern plain of Saitama prefecture. The parents brought mainly mice to their young. Four young birds were fledged.

2-19-2, Sakurada, Urawa-shi 338.